



「私たちの五箇山を誇れるふるさとにしよう」

県西部

赤カブで'ゆるキャラ、



魅力あふれる古里にするためのアイデアを発表する生徒



生徒が考案した、赤カブのゆるキャラのマスコット

南砺 平中

市に五箇山振興策提言

南砺市平中中学校（豊村由佳里校長）の2年生14人は20日、同校で五箇山の魅力ある地域として考えた案を田中幹夫市長に提言した。特徴の赤カブのゆるキャラ、合掌造り家屋を使ったプロジェクト、オンラインマッピングなど多彩なアイデアが出た。

【web】南砺4校

総合的な学習の一環で、平中中学校の生徒に地域に注目してほしいアンケートで選ばれた、地元の人であればいいと思うものを聞き取り、自分たちが長く住むために必要な観点からアイデアを練った。

この日は市長や松本謙一市教育長を前に、生徒が順に提言を披露。赤カブをPRするゆるキャラを考案したグループは「あなづ」と名付け、制作したマスコットを紹介した。



「おすすめ」

（田中市長様より） アンケートや聞き取り調査をしてアイデアを発表してくれたり、民謡の練習をした成果を披露してくれたりしました。がんばっている皆さんを誇らしく思いました。南砺市も「五箇山を好きになってくれる人を増やす」取組をしています。皆さんが民謡を練習して頑張っていることをもっといろいろなところで広めれば、地道だが確実に広がっていく。若い皆さんの感性が大切です。

（松本教育長様より） 発表の最初にあった「なぜなら、私たちが地域の未来だからです」という、この言葉がすばらしい。一番の未来は環境ではなく、皆さん自身です。友達やお世話になった人々がたくさんいるこの五箇山を大切に、これからも自信をもって生きていってください。



2年生が「総合的な学習の時間」に「私たちの五箇山を誇れるふるさとにしよう」をテーマに考えたことを発表しました。①「将来、住み続けるふるさと」 ②「一度離れても戻ってきたい、関わり続けたいと思えるふるさと」 ③「離れていても誇れるふるさと」、そんなふるさとにしたという3つの視点から、アイデアを出し合いました。

地域の活躍しておられる方に話を聞いていただいたり、一緒に考えていただいたりする中でアイデアがまとまっていきました。多くの方に来ていただき真剣に耳を傾けていただいたことは、生徒にとっても教職員にとってもありがたく、うれしいことでした。いつか生徒にも、どんどん故郷への思いが強くなる時がくるであろうことを思いながら……。一人一人の心に残る発表会になりました。